

営農技術情報 RO-〇号 <h1>畑作</h1>	年 月 日 発行 JA〇〇 石狩農業改良普及センター
-----------------------------	----------------------------------

## 秋・春まき小麦成熟期予測について 営農技術情報の例

**1. 適期収穫の実践**

秋まき小麦は出穂期からおおよそ 42 日程度で成熟期（子実水分 40%）を迎えます。

成熟期が近づいたら、簡易穂水分調査等を活用し、収穫適期を予想して、収穫の準備を行ってください。

- 子実水分をこまめにチェックし、30%以下になったら速やかに収穫を開始する。
- 収穫は生育の進んだほ場を優先し、倒伏や雑草の多いほ場は別刈りする。

子実水分	水分減少率
40%以上	1.5%
40%以下	3%
(晴天日)	(3~5%)

※ 低温や日照不足で水分減少率が1.5%以下になることもある。

**2. 適正な乾燥を**

- 乾燥ムラを防ぐため、張り込み量は80%程度とする。（特に高水分小麦の場合）。
- 退色粒の発生や品質低下を防ぐため、高温での乾燥を避ける。（穀温が40℃以上になると品質低下が発生しやすい）

**二段乾燥での注意事項**

- 子実水分を17%以下まで低下させた後、十分に穀温を低下させてから貯留する。
- フレコン等で一時貯留を行う場合は、上部を解放した状態にし、積み重ねはしない。
- 貯留期間はできるだけ短期間として速やかに仕上げ乾燥を行う。

## 匠 チェックを怠ると品質低下や損を招く!!

基本こそ大切！

雨が降る前に速やかに収穫するには、事前準備が大切。水分調査等であらかじめ収穫の順番を決めておくほか、ほ場周辺の雑草除去・取付道路の整備・収穫作業中の機械トラブル防止のための事前点検などをしっかり確認しよう。

私はこちらしてる！

できるだけほ場で乾燥させた方が経済的だけど、とにかく雨にあてないことが一番大事。30%以下になったら、刈れる時に刈ってしまおう。なお、水分が20%以下になってから刈り取りすると、色が悪くなるが多くなる。理想は水分20~25%だろうか。

基本こそ大切！

試し刈りし、収穫損失と損傷粒の発生状況に応じて、コンバイン各部の調整を行おう。

知っておこう！

収穫時期の天候不順はあるものと考えて、迅速な収穫・乾燥体制を考えておくことが大事。

基本こそ大切！

コンタミ防止のため、品種の取り違えが無いよう事前確認、コンバインや乾燥調製施設の清掃などをしっかりと。忙しい時こそ確認を！

(参考) コンバイン収穫損失と損傷の発生要因 (平成11年 十勝農試)

項目	発生要因	
	作物	機械
頭部損失	①子実水分が低い ②倒伏の発生	①リール回転数が不適 ②作業速度が不適 ③リール作用位置が不適
未脱損失	①子実水分が高い	①シリンダ回転数が遅い ②コンケーブクリアランスが広い ③送塵弁の開度が大きい (国産普通型)
ささり損失	①わら水分が高い	①処理量が過多である (作業速度が速い・刈高さが低い) ②処理量の変動が大きい
飛散損失	①粒重の変動	①ファンの風量が多い ②チャフシーブの開き量が不足している ③エクステンションシーブの開き量が不足している
損傷粒	①子実水分が高い	①シリンダ回転数が早い ②コンケーブクリアランスが狭い ③わら量が不足している (刈高さが高い)

## 空から見る水分量の効果

こんなことが期待されます！

- 統一した尺度で収穫順位を付ける事ができます。
- コンバインを効率的に運用する事が可能です。
- 水分格差の小さい原料の受入により、乾燥費の節約につながります。

こんなデメリットあります！

- 晴天じゃないと撮影ができない
- 草が多かったり、倒伏していると青くなる

人工衛星を用いて小麦の穂水分低下順位を推定



※人工衛星画像 (新篠津村 ICT 農業研究会より)

営農技術情報 RO-〇号

## 畑作

年月日発行

J A O O  
石狩農業改良普及センター

営農技術  
情報の例

～ 小麦収穫後ほ場の管理について ～ ※薬剤は都度営農情報をご参照ください

### 【除草剤の散布と緑肥の導入】

小麦の連作により雑草害や土壌病害が拡大する恐れがありますので、計画的な輪作体系により作付けしましょう。やむを得ず連作する場合は、作付け前の雑草処理や収穫後の緑肥導入など適正な管理が必要です。

#### 1 緑肥作物の導入

連作の回避と地力向上のため、小麦の後作に緑肥作物（ひまわり・エン麦野生種・シロカラシなど）を8月中に栽培し、10月下旬頃に鋤込むと次年度作付け作物の生育に有効です。

#### 2 除草剤の散布

多年生の雑草（イネ科雑草・ギンギシなど）が多く見られるほ場では、除草剤（クサトリキング・ラウンドアップマックスロード・サンダーボルト007など）による雑草処理を行いましょう。

表1 除草剤

処理方法	薬剤名	10a使用量	散布水量	使用時期	使用回数
雑草茎葉散布	ラウンドアップマックスロード	200～500ml	50～100ℓ	耕起前・雑草生育期	3
	クサトリキング	250～500ml	25～100ℓ	耕起前(雑草草丈30cm以下)まで	3
	サンダーボルト007	500～1000ml	100ℓ	耕起前(雑草生育期)	2

### 【排水性の改善】

土壌の物理性が悪く透排水性不良畑では、サブソイラーなどによる心土破碎や暗渠・明渠の施工など、十分な対策を行いましょう。

### 【土壌診断の実施】

- 定期的な土壌分析により、土壌化学性の診断と改良を行いましょう。
- pHは目標5.5～6.0に、石灰資材を投入しまししょう。
- リン酸は診断基準に合わせて、土壌改良資材を投入しまししょう。
- 地力の劣るほ場では、有機物（完熟堆肥・発酵鶏糞・緑肥など）の投入も検討しまししょう。

作物	目標pH
畑作物	5.5～5.7
野菜類	6.0～6.5

図1 作物別目標pH

### 【野良生えの防止】

春まき小麦（春よ恋）や秋まき小麦（きたほなみ）の後に別品種の小麦を作付けする場合は、野良生えの発生によるコンタミ防止対策を行いましょう。

- プラウ耕による種子の埋没処理。
- 軽くロータリー耕を行い一度発芽させた後、再度ロータリー耕で土壌混和。
- 除草剤（ラウンドアップ等）の散布。

薬剤の使用にあたっては、適正使用基準を遵守しまししょう！



あなたのスマホが来年の豊作を約束します！！

基本こそ大切！



麦収穫後の長い秋の期間を活かして、緑肥栽培やたい肥の投入など積極的に土づくりを行おう。乾燥した良い条件で作業できるので、心土破碎などほ場の物理性改善や排水対策に取り組むにも良い時期だ。



収穫後に緑肥を作ることで、有機物の投入と雑草対策につなげよう。



収穫後の麦稈は速やかに持ち出ししてたい肥化。貴重な有機物資源を有効活用。立枯病など土壌病害が発生したほ場はすき込まないで持ち出し。

えん麦野生種	ひまわり	シロカラシ
ヘーオーツ・サイヤーなど	夏りん蔵・春りん蔵など	キカラシ・夏カラシ
有機物の補給効果、ばれいしょのそうか病や小豆の落葉病に効果がある。	有機物の補給効果、景観作物に適する。パーティシリウムや菌核病に罹病しやすい。	有機物の補給効果、景観作物に適する。発芽や初期生育に良好である。

(株) 雪印種苗緑肥物語およびホクレン優良資料種子より引用

私はこうしてる！



私は25%で散布している。少量散布する時は専用ノズルを変えること。

私はこうしてる！



pHの低いほ場は急には改善しない。土壌条件・次の作物を考慮して計画的に石灰資材を投入しよう。安くて扱いやすいのは・・・やっぱり炭カル。



毎年行うことが大切なので、融雪の時には、私は防散炭カルを使ってる。

### ＜土壌診断＞

私はこうしてる！



どの作物でもそうだが、土壌診断は営農の基本。土壌のクセを掴もう。また、春先の忙しい時期より秋に行くと良い。秋なら土壌のクセを掴むために考える時間がある。「何年間に1度」ではなく「毎年」実施すると、データが蓄積されるので、変化が出た時に要因の分析ができる。

どうしても診断点数が多くなって大変な時、私の場合は、数年に1度、同じ土質の団地ごとに土壌診断を実施している。大区画の場合は、同じ区画の中でも土質が異なる場合があり、土壌診断を行うと意外と分析値が異なる場合もあるので注意だ。



### ＜1年の反省＞

基本こそ大切！

反省はその年のうちに。反省とは落ち込むことではなく、失敗から学び、次に活かすこと。



やって良かった！



1年を通じ、何かに気づいた時はすぐスマホで写真を撮るクセをつけている。記録を残しておくと思出しやすく、次の計画を考える時に役立つ！

# きたほなみ生育・作業暦（石狩北部管内）

月	旬	生育期節(平年値)	農作業
9	上	播種期 9月22日	大豆間作播種 土壌処理除草剤散布
	中		
	下		
10	上	出芽期 10月1日	
	中		
	下		
11	上		(秋期)融雪水除去対策 雪腐病防除 (スプレー) (ラジコン)
	中		
	下		
3	上	融雪材散布	上追肥
	中		
	下		

生育期節(平年値)	農作業	旬	月
起生期 (4月19日)	起生期追肥	中	4
幼穂形成期 (5月12日)	除草剤散布 眼紋病防除 幼穂期追肥	上 中 下	5
止葉期 (6月2日)	赤さび病防除 うどんこ病防除 止葉期追肥	上 中 下	
出穂期 (6月12日)	赤かび病防除 アブラムシ防除 葉面散布追肥	上 中 下	
乳熟期 (6月29日)		上 中 下	7
成熟期 (7月22日)	収穫期 (7月29日)	上 中 下	
	緑肥栽培 または 堆肥散布	上 中 下	
		中	8
		下	